

べ2000人以上の参加を見込んでいる。

全体会の会場や分科会会場、さらに宿泊施設など施設の確保のためには大木町だけでは対応が難しいこともあり、同じく会員自治体であった筑後市と相談しながら準備を進めてきた。

また、ごみ処理を一体的に行っている大川市にも共同開催を呼びかけたところ、快諾をいただき2市1町による共同開催となった。

環境をテーマにした大きなイベントを共同で開催することで、2市1町が足並みをそろえ環境の取組みを大きく前進させる契機にすることができれば、大きな意味があると考ええる。

問

テーマ、全体会、分科会。

環境課長

第18回環境自治体会議「ちっこ会議」は、日時は平成22年5月26日(水)〜28日(金)の3日間、大会の全

体テーマは「巡って 戻って つないで生きよう」ちっこからの発信」に決まった。

大会第1日目の全体集会は筑後市のサザンクス筑後で開催する。「内山節氏」をお迎えした基調講演や、ごみゼロ社会を目指して(仮称)をテーマに、ゼロウェイスト宣言自治体や宣言予定自治体である、徳島県上勝町、熊本県水俣市、神奈川県葉山町をお迎えし、本町石川町長も加わって対談する、首長シンポジウムなどを予定している。

大会第2日目は、14会場に分かれ全部で19の分科会を予定している。持続可能な循環型の地域社会づくりを目指すために、様々なテーマに分かれて意見交換を行う。

分科会終了後に、大木町総合体育館において、参加者交流会を予定している。地域の特産物を使った郷土料理や出し物を披露し、全国から参加いただいた皆さんを歓迎するとともに、お互いの交流を深める。

大会第3日の全体集会は、

大川市文化センターで開催される。前日の分科会の議論を受けて、筑後市・大川市・大木町の首長による座談会を行う。2市1町が協力して環境の取組みを進める決意を述べていただく。

また、本大会の重要なテーマである、ごみゼロ社会を目指すために、拡大生産者責任の徹底や飲料容器などのデポジット制度の導入を目指し、明治学院大学「熊本一規氏」の基調報告を受けて、EPR・デポジット制度を早期に求める宣言採択を予定している。

問

実行委員会の役割 分担、スケジュール。

環境課長

この大会を成功させるために、21年6月に第18回環境自治体会議「ちっこ会議」実行委員会を立上げ準備を進めており、6月から11月迄6回の実行委員会を開催している。

実行委員会は、協賛金の募

集や参加者の募集、当日の運営を担当する総務部会・大会日程や分科会運営を担当する企画部会・広報宣伝を担当する広報部会・2日目の交流会を担当する交流部会を設け、実行委員の皆さんに各部会に参加していただいで具体的な準備を行っている。

問

広報計画(参加案内、他市町村へのPRなど)。

環境課長

これから、広報宣伝の充実や、参加者募集、当日の運営の具体化など、準備作業を本格化させる必要がある。特に広報等により、町民の皆さんへの参加の呼びかけや隣接する市町村の参加の呼びかけを行い、地域の皆さんに多く参加いただけるように働きかけていく予定である。

一般参加の場合は参加費2万円が必要になるが、町内など主催自治体地区住民の皆さんの参加費は無料となる。

問

実行委員会の予算

環境課長

「ちっこ会議」開催のための実行委員会予算として、総額1300万1千円を計上している。収入内訳は、各自治体負担金がそれぞれ200万円ずつで合計600万円、参加費として400万円、協賛金として300万円、雑収入として1千円を計上している。予算は準備費用や当日の運営費用、大会報告を含めた資料作成費用が含まれている。